



「土の鼓」 2024 年／パネルに和紙、油彩、水干絵具、岩絵具／1455×1120mm



「庭の縁から鳥をなぞる」 2020 年／パネルに和紙、油彩、水干絵具、岩絵具／970×1300mm／撮影：嵯峨倫寛

「N.E.blood 21」は精力的に制作、発表活動を行う東北・北海道在住若手作家を紹介するシリーズ企画です。美術館とアーティストとの新しい関係を模索しつつ、作家同士のネットワーク形成を念頭に置き展覧会を開催しています。第 89 回目となる本展では宮城県多賀城市在住の作家 浅野友理子(あさの ゆりこ)を紹介します。

浅野は 1990 年宮城県生まれ。2015 年東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻洋画研究領域を修了。各地の取材を基に植物をモチーフとした絵画を描き、「VOCA展 2020」にて大原美術館賞を受賞するなど高い評価を得ています。

浅野は訪ね歩いた様々な土地で取材した主にその食文化や植物利用方法を、出会った人々との交流も含めた日記のように絵を描いています。探訪風土記ともいえる浅野の絵は、植物の底知れない生命力を背景に、その土地に眠っていた記憶までも生き生きと蘇らせ、人と植物との本来的な関係性やあるべき姿を私たちに想起させます。

本展では気仙沼の海藻食文化を主題とした新作 2 点を含む約 25 点を展示します。



「沃野の美り」 2024 年／パネルに和紙、油彩、水干絵具、岩絵具／970×1303mm



新作制作の様子(気仙沼のワカメを主題に)

浅野友理子 YURIKO Asano

1990 年宮城県生まれ。2015 年東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻洋画研究領域修了。主な個展に「種の温床」(SNOW Contemporary, 2023 年)、「つづり思考」(風の沢ミュージアム、2023 年)、グループ展にアーティストインレジデンスプログラム 2024「SPINNING SCAPS」(国際芸術センター青森、2024)、「あちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ 2024」(2024)、「土とともに美術にみる(農)」の世界ミレー、ゴッホ、浅井忠らに現代のアーティストまで一(茨城県立近代美術館、2023 年)、「青森 EARTH 2019」のち耕す場所 農業がひろくアート(青森県立美術館、2019)など、「VOCA展 2020 現代美術の展覧会」新しい平面の作家たち「大原美術館賞受賞。



「ひそやかな交易」 2024 年／和紙、アクリル絵具、水干絵具、岩絵具／10000×1300mm／撮影：KONO Yurika



「ひそやかな交易」(部分)



「藍の繻」 2023 年／パネルに和紙、油彩、水干絵具、岩絵具／1765×7600mm



同時開催
N.E.blood 21
Vol.88
ちしきあふ
森島久枝展
鎌金／若手県在住
＜観覧無料＞

リアス・アーク美術館利用案内 ●常設展—①美術作品展 ②歴史民俗資料展＝舟日記一海と山を生きるリアスなくらしー ③東日本大震災の記録と津波の災害写真展 【常設観覧料】一般：700(600)円／小学生：500(400)円／中学生：350(250)円 ※1円は 20 名以上の団体料金 ●ワークショップ—土・日を中心に開催するアトリエ ●レストラン「キッチン」—スペースの倉一 地元食材中心の創作料理をこ提供。日替りランチ、シーフード系/スタカレーラーメンが人気です。

●三陸自動車道(気仙沼中央 IC)から約 5km(仙台市から約 115 km/石巻市から約 70km/陸前高田市から約 25 km)
●東北自動車道(一関 IC)から約 50 km ●無料駐車場あり(普通 37 台・大型 5 台)

●東北新幹線【一関】—(大船渡線) 【気仙沼】／東北新幹線【仙台】—(気仙沼線) 【気仙沼】 ●気仙沼駅からタクシー(約 15 分)をご利用ください。 ※タクシー割引券と「常設観覧券引換券」のセッククーポン券が気仙沼駅前観光案内所、(一社)気仙沼市観光協会(電話：0226-22-4560)で販売中。 ※現在、気仙沼線【前田地～気仙沼】間、大船渡線【盛～気仙沼】間は ERT 運行。